

新潟焼山の火山活動解説資料（令和2年1月）

気象庁地震火山部
火山監視・警報センター

噴煙活動及び地震活動は低下した状態が続いています。
しかしながら、新潟焼山はこれまでも噴気活動の活発化を繰り返しているため、今後の活動の推移に注意してください。
噴火予報（噴火警戒レベル1、活火山であることに留意）の予報事項に変更はありません。

○ 活動概況

- ・表面現象の状況（図2、図3－①、図4～5）
噴煙活動は低下した状態で経過しています。今期間、山頂部東側斜面の噴気孔からの噴煙は、火口縁上100m以下で経過しました。
- ・地震や微動の発生状況（図3－②、図6～7）
火山性地震は少なく、地震活動は低調に経過しています。今期間、新潟焼山周辺に震源が求まる地震はありませんでした。
火山性微動は観測されていません。
- ・地殻変動の状況（図1、図3－③④）
GNSS 連続観測では、火山活動によるとみられる変動は認められません。

この火山活動解説資料は気象庁ホームページ（https://www.data.jma.go.jp/svd/vois/data/tokyo/STOCK/monthly_v-act_doc/monthly_vact.php）でも閲覧することができます。

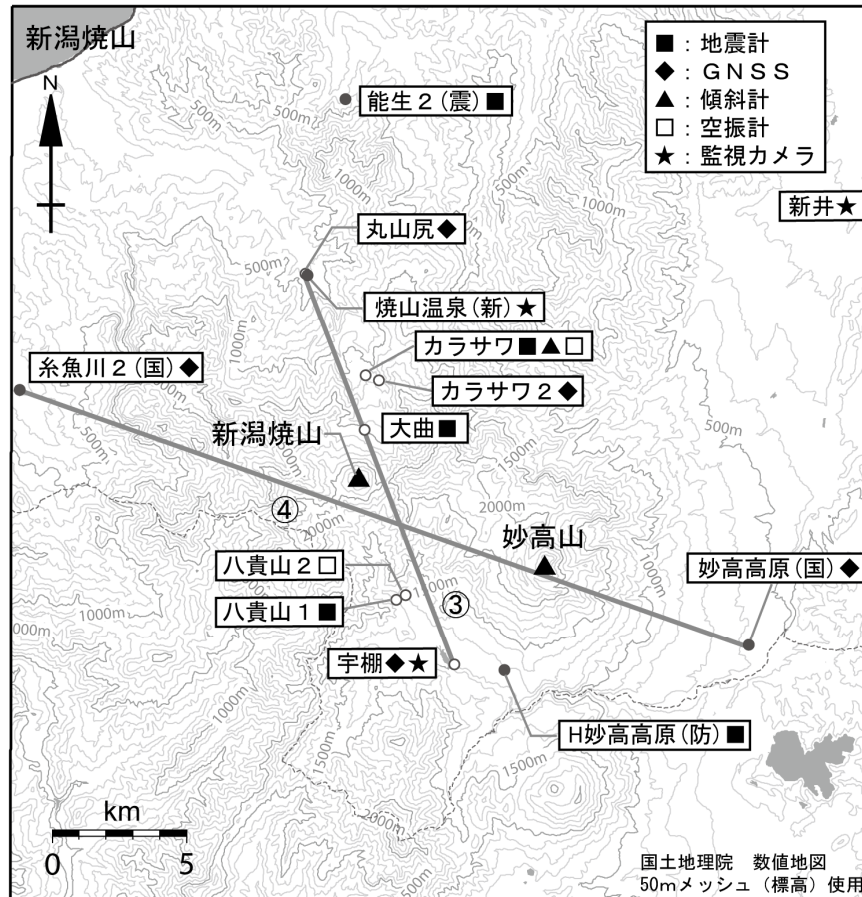
次回の火山活動解説資料（令和2年2月分）は令和2年3月9日に発表する予定です。

本資料で用いる用語の解説については、「気象庁が噴火警報等で用いる用語集」を御覧ください。

<https://www.data.jma.go.jp/svd/vois/data/tokyo/STOCK/kaisetsu/kazanyougo/mokuji.html>

この資料は気象庁のほか、国土地理院、東京大学、京都大学、国立研究開発法人防災科学技術研究所、新潟県及び公益財団法人地震予知総合研究振興会のデータを利用して作成しています。

資料中の地図の作成に当たっては、国土地理院長の承認を得て、同院発行の『数値地図 50mメッシュ（標高）』を使用しています（承認番号：平29情使、第798号）。



小さな白丸（○）は気象庁、小さな黒丸（●）は気象庁以外の機関の観測点位置を示しています。
 （国）：国土地理院、（防）：防災科学技術研究所、（震）：東京大学地震研究所、（新）：新潟県

図1 新潟焼山 観測点配置図
 （GNSS 基線③④は図3の③④に対応しています）



図2 新潟焼山 山頂部の噴煙の状況
 （左：焼山温泉監視カメラ（1月10日）、右：宇棚監視カメラ（1月10日）による）

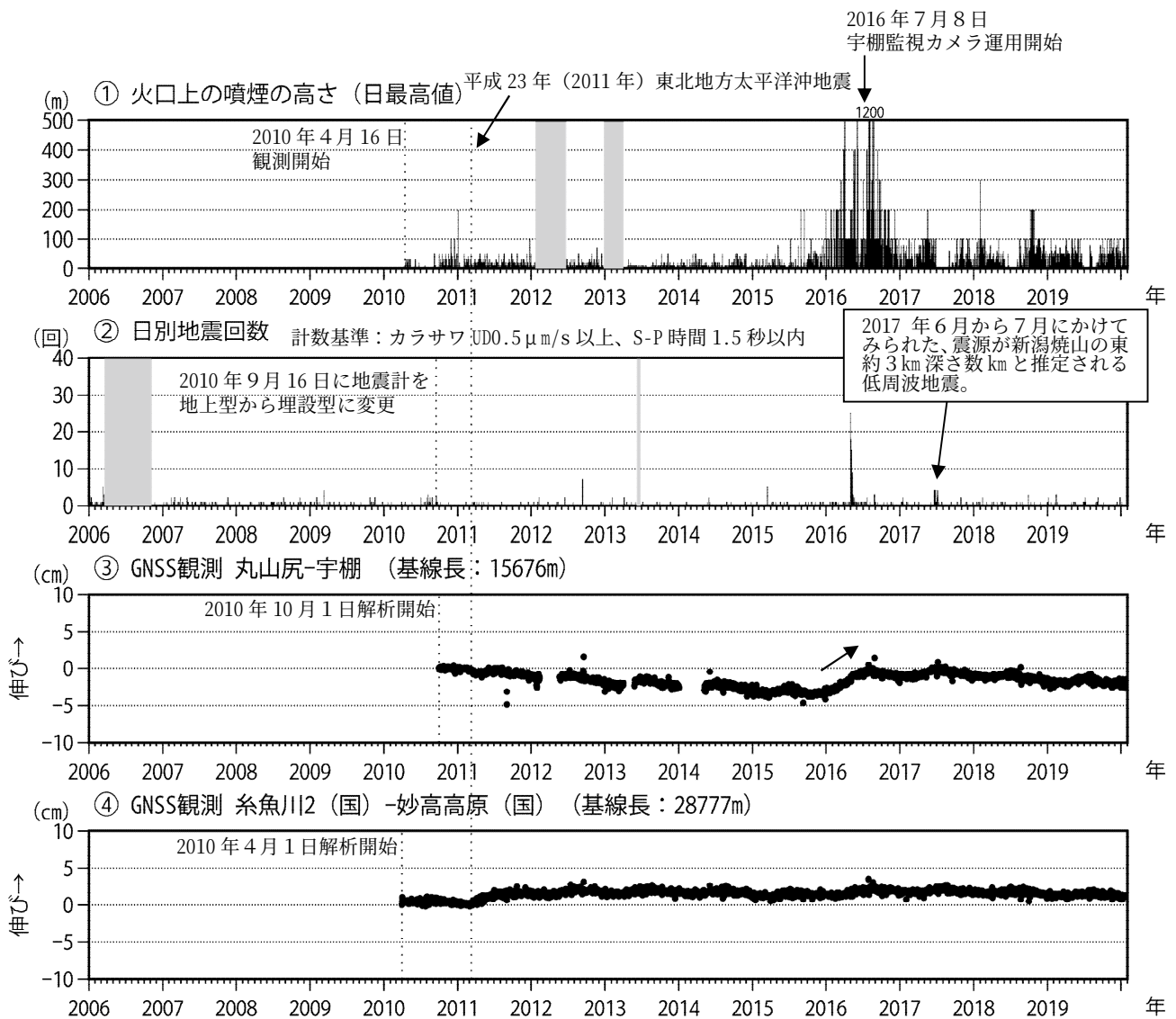


図3 新潟焼山 火山活動経過図（2006年1月1日～2020年1月31日）

（国）：国土地理院

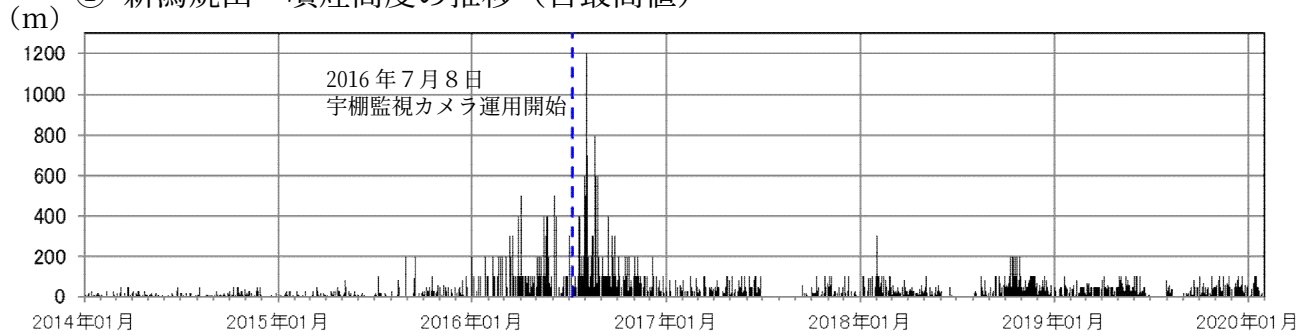
①② 灰色部分は機器障害による欠測を示します。

③④ 図1の③④に対応しています。空白部分は欠測を示します。

平成23年(2011年)東北地方太平洋沖地震によるステップを補正しています。

- ・今期間、山頂部東側斜面の噴気孔からの噴煙は、火口縁上100m以下で経過しました。
※夏場には、視界不良のため山頂部が見えないことが多くなります。
- ・③の基線で2016年1月頃から2016年夏頃にかけて伸び（矢印）の変化がみられましたが、今期間、火山活動によるとみられる変動は認められません。

① 新潟焼山 噴煙高度の推移（日最高値）



② 新潟焼山 噴煙の長さの推移（日最大値）

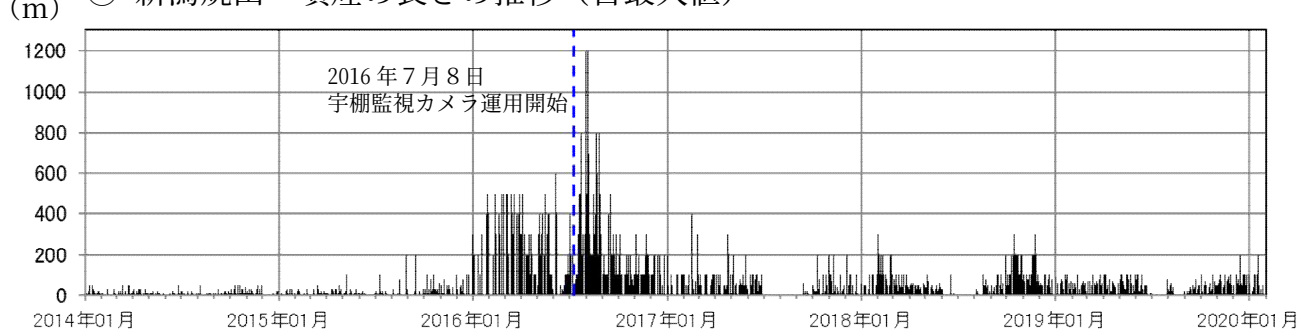


図4 新潟焼山 噴煙高度と噴煙の長さの推移

（それぞれ日最高値及び日最大値、2014年1月1日～2020年1月31日）

噴煙高度は強い風の影響を受ける場合があるため、風の影響を受けにくい噴煙の長さ（図5参照）のグラフも示しています。

2016年7月8日に宇棚監視カメラの運用を開始しました（宇棚監視カメラの位置は図1を参照）。それ以前は、最高値が確認できていないことがあります。

- ・2017年7月から8月にかけては、期間を通して視界不良のため山頂部が見えないことが多く、また観測できた時間帯も、山頂東側斜面からの噴気は観測されませんでした。
- ・2015年夏頃から噴煙はやや高く上がる傾向が認められ、2015年12月下旬からは噴煙量も多くなりましたが、気象条件により噴煙が高く上がる日はあるものの、2016年秋から噴煙高度は低下した状態で経過しています。

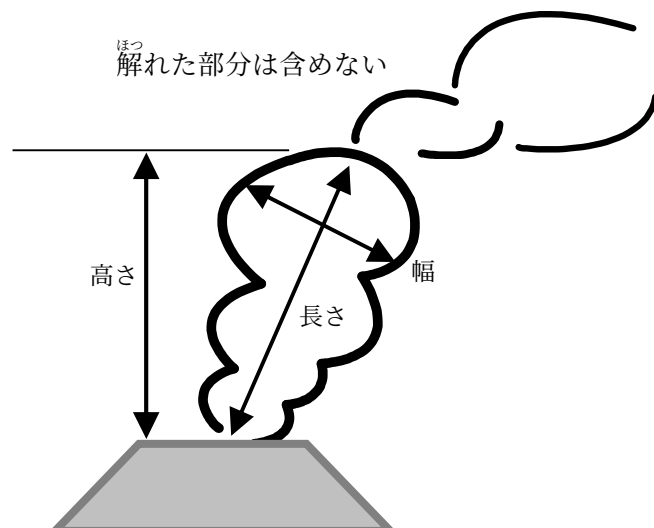


図5 噴煙の長さ、幅、高さの概念図

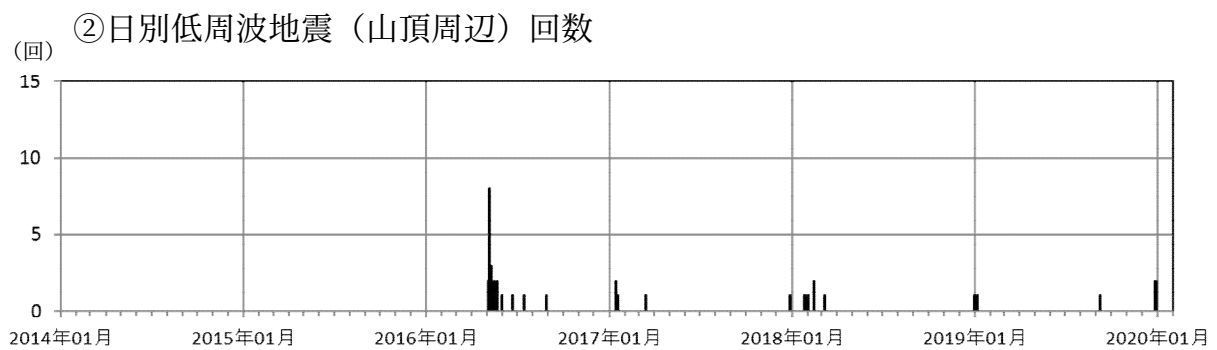
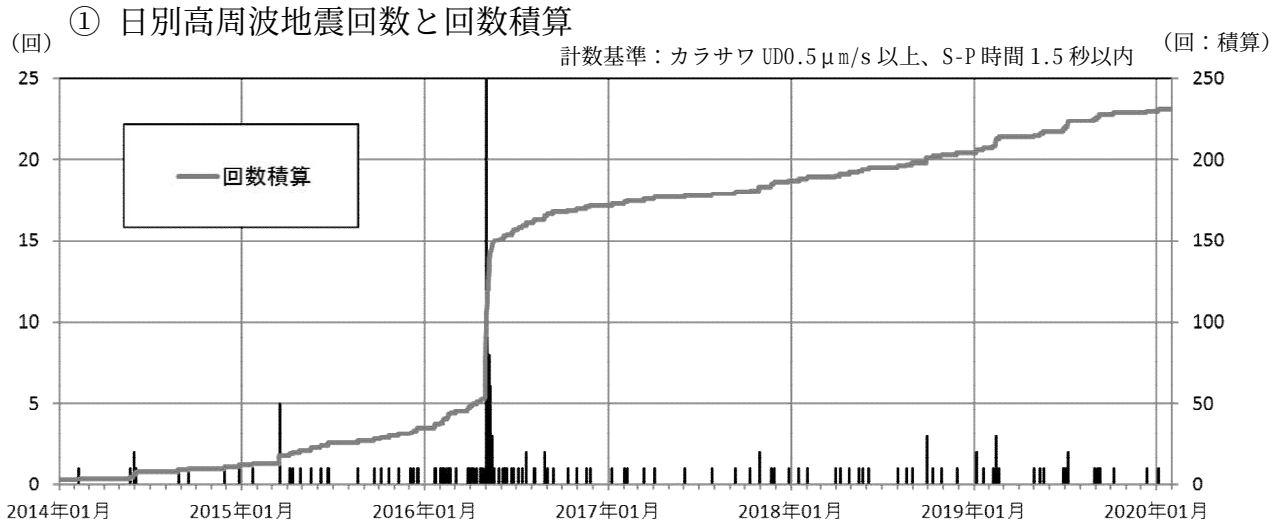


図6 新潟焼山 日別地震回数（2014年1月1日～2020年1月31日）

地震の主な種類（図7参照）ごとの回数を掲載しています。

- ・2016年5月頃に火山性地震回数が増加し、低周波地震も発生しましたが、2016年6月に減少し、それ以降火山性地震は少ない状態で経過しています。

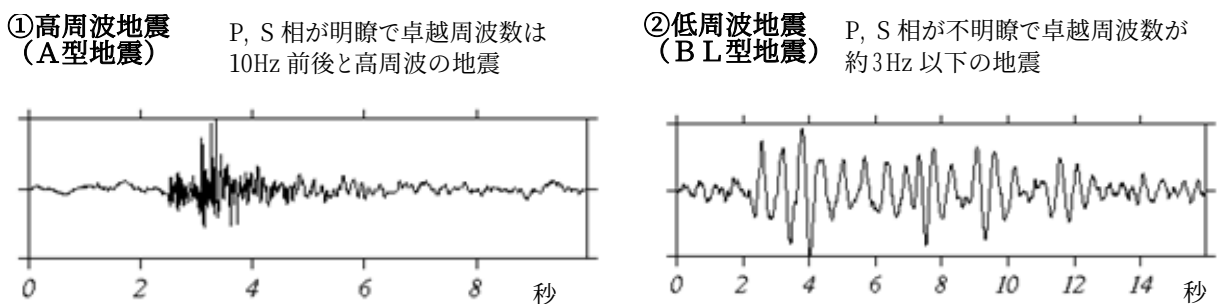


図7 新潟焼山 火山性地震の特徴と波形例